世界遺産・白川郷交通社会実験について

中部地方整備局　高山国道工事事務所　　近藤　弘司
高山国道工事事務所　　正会員　　吉木　務

1．調査の目的

世界文化遺産白川郷は、集落の歴史的景観とその周囲の自然環境が良好に保存されており日本を代表する歴史的遺産として高く評価されている。近年観光客は増加の傾向を示し、平成14年11月16日には東海北陸自動車道白川郷ＩＣの富山側が開通し、交通量がさらに増加するものと考えられている。そうした中で白川郷は、一時に集中して訪れる観光客による貴重な文化遺産等の資源のすり減りや、良好な環境を保持することの難しさが指摘されている。

そこで、世界遺産白川郷にふさわしい交通体系を実現するため、地区内への観光交通流入の排除と地区外道路の混雑の解消、村民との合意形成を目的として、交通社会実験を実施した。

2．地域の概況と課題

広く世界を見ても、生活が現に営まれている集落全体を世界遺産地区として指定した例は白川郷をおいて他に例がない。しかしながら、指定を受けて後、農村生活から観光を中心とした生活へと変化し、そこに白川郷のキャパシティを越えた観光交通が押し寄せるようになった。その結果、様々な問題が顕在化している。

白川村の基本的な課題を整理したものが図２である。今後、無秩序に観光客が増加した場合には、１）世界遺産の歴史的価値がすり減ってしまうこと、居住環境の悪化が進んでしまうこと、２）地域産業としての観光業の魅力が低減してしまうことが懸念される。

とりわけ、交通問題に関しては、平成14年11月16日に白川郷ＩＣの開通（富山側）し、緊急の対策が必要な状況にある。また、交通上の課題を解決するためには、観光や農業の立場も包括する「まちづくり」の観点が重要である。

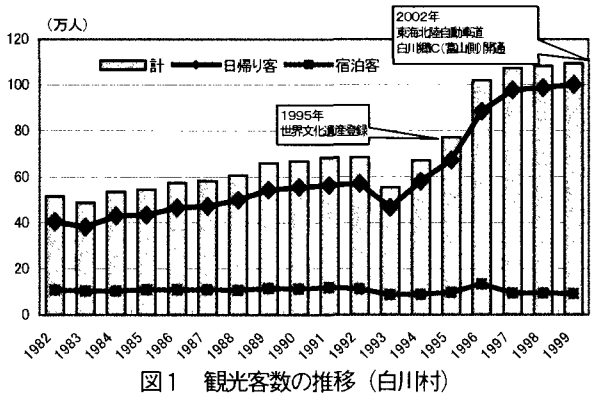

図１　観光客数の推移（白川村）

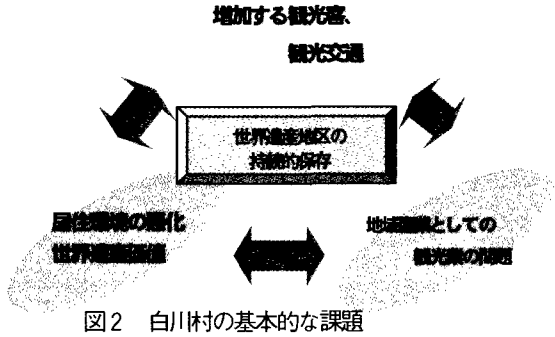

図２　白川村の基本的な課題

3．交通社会実験の内容

実験は、世界遺産白川郷（白川村荻町地区）約50haの範囲で、平成13年10月６日～８日、秋の行楽シーズン（３連休）に実施した。評価にあたっては、各種実験を行う日と行わない日を設け比較データを取得した。

表１　実験の内容及び評価項目

（実験内容）
★世界遺産地区への観光車輌の進入制限
★パーク＆バスライド（シャトルバス）
★パーク＆サイクル
★駐車場予約システム
★交通量、騒音、渋滞長、アンケート等調査

（評価項目）
・進入制限は観光客、村民にどう受け入れられるか
・進入制限による土産物店、観光業への影響の量的把握
・代替移動手段の妥当性の検証と改善点の把握
・駐車場予約システムは観光行動の変化を促せるか　等

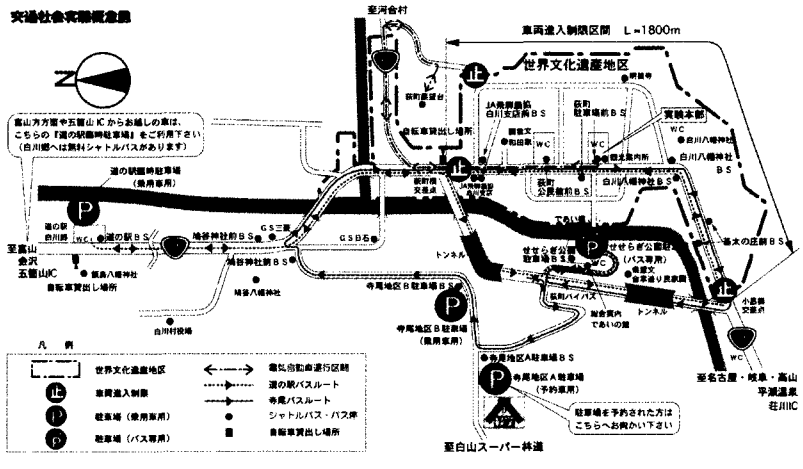

図３　実験の概念図

4．実験結果の概要と評価

実験中の観光客数はピーク日の７日で約１万人であった。

① 観光客の観光行動の変化

車輌進入制限を行った日は、地区内の平均滞在時間は約 50％アップ（1.5 時間から 2.2 時間）、平均移動距離は 10％アップした。また、歩行速度は通常時の 860m／時から 640m／時になり、ゆったりとした散策が行われた。加えて、旧国道以外の小道にも多数の観光客が散策し、回遊区域が広がったことが検証された。また、滞在時間が伸びた結果、観光客一人当たりの消費金額は約 10％アップした。実験中の観光行動の変化は、概ね期待通りの結果となった。

図４　車輌進入制限実施日の旧国道

図５　車輌制限なし（通常の週末）の旧国道

表２　世界遺産地区内の歩行移動距離、平均滞在時間、平均歩行速度

	平均移動距離	平均滞在時間	平均歩行速度
6、7 日（進入制限あり）	1427m	2.22 時間	643 m／時
8 日　（進入制限なし）	1296m	1.50 時間	864 m／時
（制限あり／制限なし比率）	(1.10)	(1.48)	(0.74)

② 車輌進入制限に対する観光客、村民の評価

車輌進入制限の実施は、観光客は 90％以上、村民は約 70％が本格実施を望むとのアンケート結果であった。

③ 代替移動手段に対する評価

今回予測を超える観光客が集中した結果、シャトルバスの利用が一時滞る状況が生じた。駐車場の案内や誘導、バスの運行間隔やルート、バス停の位置等さらなる検討が必要である。

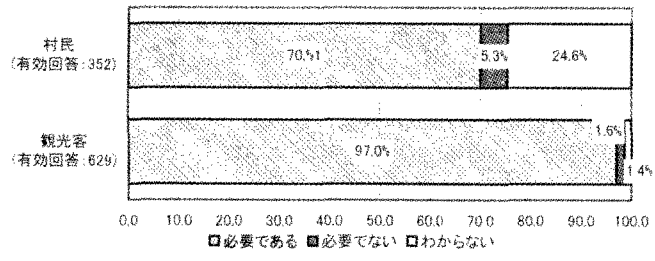

図６　車輌進入制限の必要性について

④ 駐車場予約システム

駐車場予約システムはピークカットを目的としたもので、時間を指定して駐車場を予約するシステムである。埼玉大学の久保田研究室に全面的にご協力頂き実施した。実験前日までは、インターネットや携帯電話で予約でき、当日は白川村周辺に設置した予約ブースにて予約して頂いた。

混雑のために、希望どおりに予約できなかった車両のうち、１８％が入庫時刻をずらして予約した。また、希望どおりに予約できた車両のうち２２％が寄り道を前提として希望時刻に予約した。入庫時刻をずらし、白川郷への到着時刻を調整する行動が見られ、予約システムによる観光交通需要コントロールの可能性があることが示された。これは混雑した白川郷に来る前に寄り道することにより、周辺の観光施設等の活性化につながる可能性もある。

また、予約システム利用者は利用していない人に比べて、白川郷への滞在時間が長く、消費金額も多いとの結果が得られた。

5．今後の課題

今後は、世界文化遺産地区にふさわしい交通対策の本格稼働を目指して、平成１４年度には地域住民の合意形成を図るために積極的に計１８回の地元会合を開催した。また、平成１３年度の実験で明らかになった課題を解決し、次回試行以降における村独自での運用可能性を高める観点と、世界遺産地区内の歩行者回遊行動の誘発性を重視したバス輸送、車両進入制限、駐車場予約の計画に基づいて、１０月６日に交通対策の試行を行った。この２年間の結果を評価し、今年度末には白川村全体を視野にいれた①交通対策の基本計画案及び、②白川村まちづくり計画案（地域間の連携、乱開発防止条例、景観保存）を策定する予定である。